

日本基督教学会編

日本の神学 63 (2024年版)

——シンポジウム キリスト教はコモンズを創出できるか——

A 5判・並製・180頁・定価 3,080円(本体価格 2,800円+税)・ISSN 0285-4848

講演 現代日本においてキリスト教は公共的言説たりえているか

佐藤 啓介

書評 山我哲雄『旧約聖書における自然・歴史・王権』

評者 高井 啓介

浅野淳博『新約聖書の時代』

評者 山吉 裕子

金香花『神と上帝』

評者 吉田 新

堀江洋文『ハインリヒ・ブリンガー』

評者 森田 安一

小俣ラポー日登美『殉教の日本』

評者 踊 共二

松谷好明『〈ウェストミンスター信仰告白〉歴史的・分析的註解』

評者 袴田 康裕

近藤勝彦『キリスト教教義学』上・下

評者 芦名 定道

芳賀力『神学の小径』(全五巻)

評者 宮平 望

木原活信『ジョージ・ミュラーとキリスト教社会福祉の源泉』

評者 才藤千津子

安酸敏眞『「キリスト教学」の探究』

評者 西原 廉太

鬼頭葉子『動物という隣人』

評者 南 翔一朗

郭南燕編著『宣教師の日本語文学』

評者 川村 信三

ほか

シンポジウム 「キリスト教はコモンズを創出できるか」

川村信三・村上みか・福嶋 揚